

平成 29 年度 第 1 回新宿区産業振興会議 議事要旨

- 【日 時】 平成 29 年 5 月 23 日 (火) 午後 6 時 ~ 8 時
- 【場 所】 B I Z 新宿 (区立産業会館) 多目的ホール
- 【出席者】 委 員 : 植田、河藤、松尾、酒井、前田、志村、加藤、富田、太田、遠藤各委員
事務局 : 村上文化観光産業部長、太田産業振興課長、小泉文化観光課長、黒澤産業振興係長、
久野主任主事、後藤産業創造プランナー

【欠席者】 友成委員

【傍聴者】 なし

【配布資料】 省略

【内 容】

1 開会

2 議 事

- (1) 産業振興プランの構成案とたたき台について
- (2) 第 3 期報告書の作成について

3 主な発言内容

○産業振興プランについて

- ・事業者の役割として、創意工夫や自助努力をわかりやすい言葉で、自分のこととして捉えられる表現にする工夫が必要である。
- ・魅力的な企業にしていくために、個々の企業がどういう努力をしていくのか、経営者がどういう努力をしていくのか、また魅力的なまちにしていくために、行政はどういう努力をしていくのか、商店街としてどういう努力をしていくのか。それぞれの主体がいろいろなところでいろいろな努力をしないと、魅力的なまちづくりはできないと思う。
- ・少子高齢化の進行に伴う労働人口の減少や担い手不足について、外国人の雇用や受け入れ体制の整備も重要でなはいか。
- ・産業振興の視点があって、施策がどのように位置づけられるのか、相関関係があるのか、わかりやすい構造にした方がよい。
- ・産業振興の視点と施策の相関関係は、それぞれの施策が 1 つの視点だけで見るとはではなく、複数の視点に関わってくるものであるため、施策をカテゴリー化する必要はない。
- ・事業承継や創業、人材の課題は、区として取り組んでいかなくてはいけないと考えていても、様々な理由から現場では対応できず、先に進まないことがあるということを考えておかなければいけないと思う。
- ・地方の産品を商店街で販売する、地域資源を活用して人を呼び込む、学生と企業の接点づくりによる雇用の推進など、点と点や線と線、そして面をつなぐ方向性も必要ではないか。
- ・「ICT を活用した展開」というタイトルは、さまざまな意味が考えられるので、混乱してしまうのではないか。タイトルはそのままに、内容は「ICT を事業に取り込んで新しい商品開発する」「ICT を事業に導入して事業展開を図る」という書き分けにするか、タイトルそのものを変えてしまって、「ICT を事業活動に取り入れる」というタイトルにしてはどうか。
- ・働く環境の整備や人材確保は、企業側の努力も必要だが、区の施策というきっかけがあると企業も取り組みようという気持ちができると思う。区は中小企業がレベルアップしていくためのきっかけづくりや PR を積極的に行っていく必要があるのではないか。
- ・働きやすい環境づくりの「社員」という言葉は、そこで働いている人を指すのだと思う。「社員」に限定せず、もっと広く「性別や国籍を問わず、国内外の人が活躍できる」としてはどうか。

- ・「商店街の魅力アップ」は、若手を巻き込んだ組織づくりや改革を意識的にやっていかなければいけないということを付け加えたほうが良いと思う。
- ・プランの進捗管理については、絶えず有効性をみていくことが重要と書いてあるが、いまKPIにしても政策評価にしても、有効性、効率性、妥当性が明確に区別されているので、単純に有効性だけでいいのか、KPIなら有効性をどう図るかなども絡んでくる。
- ・プランの進捗管理は非常に重要なことなので、しっかりと書き込んでいってほしい。

4 次回日程について（予定）

- | | | |
|------------|-----------------------------|--------------------|
| (1) 専門部会 | 日時：平成 29 年 6 月 20 日（火）18:00 | 会場：BIZ 新宿 商談室 |
| (2) 産業振興会議 | 日時：平成 29 年 7 月 11 日（火）15:00 | 会場：BIZ 新宿 多目的ホール |
| (3) 区長への報告 | 日時：平成 29 年 8 月 22 日（火）9:00 | 会場：新宿区役所本庁舎 3階 区長室 |

5 閉 会